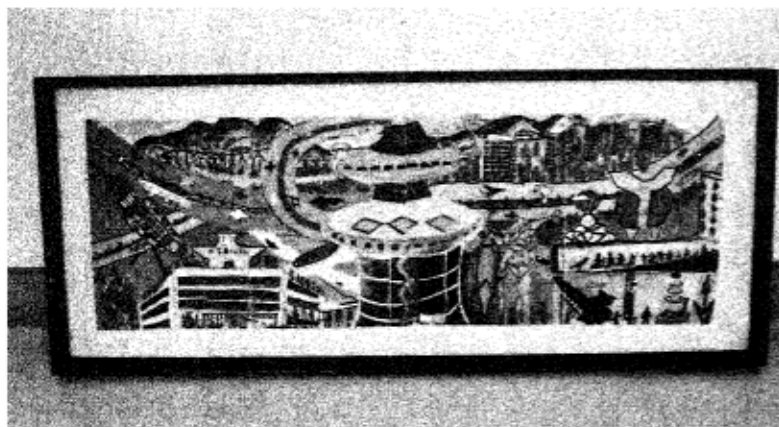




壁画の原画

昭和48年、禾生第一小学校百周年記念事業の一つとして、「百年後の禾生」と題した壁画の製作が行われた。

原画は、児童から募集され、当時5年生であった志村一誠さんの作品が採用された。

絵は百年後の禾生が宇宙の火星に向かうロケットのステーションになった様子を描いている。

四月二十三日、禾生第一小学校新校舎落成式が行われました。
校舎は鉄筋コンクリート三階建てで、普通教室十二のほかに校内放送ができる視聴覚室など七つの特別教室を備えています。



鈴木 茂治校長

正面玄関の赤い三本柱の上に半円をいただいたモニUMENTがとても印象的なので校長先生に聞いてみました。
明治時代この学校は「昇小学校」と言われていました。そんなところから、地平線から太陽が昇るところをあしらったのがこのモニUMENTです。また、三本の柱は「知・徳・体」「子供・親・教師」などと言った意味をなしています。(写真は表紙に掲載)



テレビ放送用スタジオを備えた視聴覚教室は、禾生小学校の自慢の一つです。オン・エア中のスタジオをのぞいてみました。
週一回放送されるテレビ番組は、放送委員会の手で製作されます。この委員会は、なかなか人気が高く、なかにはジャンケンに勝ちぬいて委員になった子供もいるとのこと。
日頃、コンピュータゲームに慣れ、親しんでいる現代っ子だけに、機械の操作を覚えるのも早く、担当する先生は休日もスタジオに詰めて、マニュアル片手に勉強することもしばしば、その奮闘ぶりがかがえました。
より多くの児童に触れてもらうため、放送委員の任期は半年です。
まだスタートしたばかりですが、これからアイデアを出してより良い番組を作りたいたいと意気こんでいました。